

70th

Anniversary Report

労働金庫連合会

はたらく人の夢を支えて70年、
これからもともに

労働金庫連合会創立70周年を迎えて



理事長

西田 安範

労働金庫連合会はちょうど70年前の春、全国の労働金庫〈ろうきん〉を会員とする中央機関としてその歩みを始めました。戦後、経済復興を急ぐ当時の日本では、金融機関は国民から集めたお金の多くを、国や企業へ投資し、勤労者に貸すことはありませんでした。このため、生活費に困った勤労者は、高利貸しや質屋などから高い金利で借りるしか方法が無く、利息の負担や過酷な取立てに苦しんでいた勤労者のために、勤労者自らの手で作られた金融機関が〈ろうきん〉です。

以来、今日まで〈ろうきん〉は「働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関」として、はたらく人々に寄添い、日々の暮らしを支援してきました。現在、全国13の〈ろうきん〉が47都道府県に約600の店舗を展開し、1,000万人を超えるお客さまに〈ろうきん〉を利用いただき、預金残高は約23兆円となりました。

労働金庫連合会は、〈ろうきん〉間の資金需給調整、〈ろうきん〉の余裕資金の効率的な運用、オンラインシステムの開発・運営など、〈ろうきん〉が行う金融活動を支える役割を担ってきました。

近年、テレワークの拡大やフリーランスの増加、不安定な世界情勢や物価上昇などの社会環境変化により、はたらく人と金融機関との関わりや金融機関が果たすべき役割も変化し、〈ろうきん〉もはたらく人を取巻く社会環境の変化に適応するしなやかさが求められています。

こうしたなか昨年、〈ろうきん〉は新たなビジョン『ろうきんビジョン2035～共感と協創～』を策定し、存在意義（パーパス）を「はたらく人とその家族の夢としあわせな暮らしの実現～共感と信頼の力で/会員・地域の仲間とともに～」としました。変化・多様化する時代において、〈ろうきん〉だけでは解決できない様々な社会的課題の解決に向け、会員はもちろん地域の仲間などと連携し、はたらく人の“安心できる暮らし”の実現をめざしてまいります。

労働金庫連合会は、ろうきんビジョン2035の実現に向けて中央金融機関としての役割を一層発揮すべく、社会の変化に対して常にアンテナを高く張り、役職員一人ひとりが変革意識をもって事業運営に携わってまいります。

労働金庫連合会を長きにわたり支えてきてくださった皆さまに心から感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年3月

ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。

ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。

ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。

会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

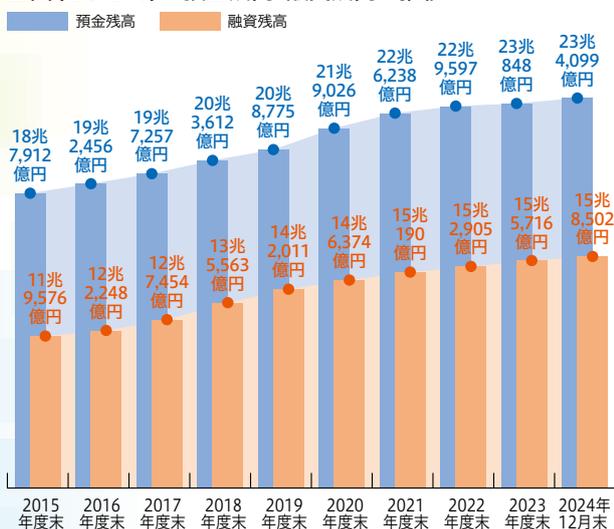
全国〈ろうきん〉預金残高が23兆円を突破 労金連の有価証券等残高は4兆円規模を維持

〈ろうきん〉は、はたらく人からお預かりしたお金を、はたらく人のために有効活用しています。

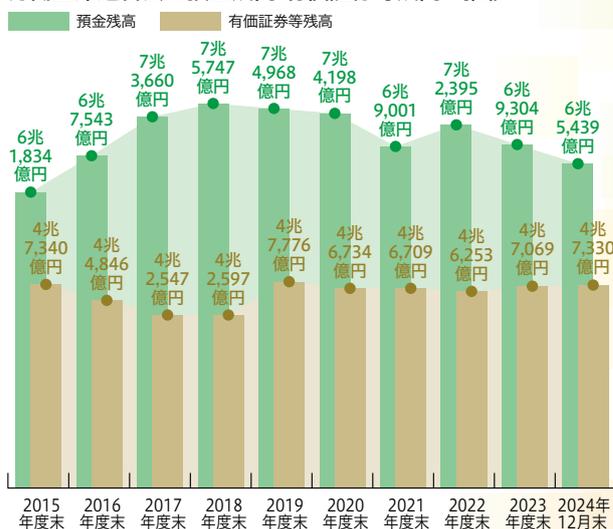
全国〈ろうきん〉の預金・融資残高は年々増加し、2024年12月末時点の預金残高は23兆4,000億円を超え、また生活に役立つ融資は15兆8,000億円を超えています。

労金連では、〈ろうきん〉の融資以外の余裕資金を集中し、効率的に運用することで、〈ろうきん〉に安定的に収益を還元する役割を果たしており、2024年12月末時点の預金残高は6兆5,000億円を超え、有価証券等残高は安定的に4兆円規模を維持しています。

全国〈ろうきん〉の預金残高・融資残高の推移



労金庫連合会の預金残高・有価証券等残高の推移



預金残高は譲渡性預金を含む合計、有価証券等残高は金銭の信託を含む合計

〈ろうきん〉の誕生から5年後の1955年、労金連は、〈ろうきん〉を会員とする中央金融機関として設立され、現在は13の〈ろうきん〉が労金連の会員となっています。

労金連は、〈ろうきん〉の余裕資金の集中による効率運用、事務集中による〈ろうきん〉の業務の効率化、オール・ワンシステムの開発・運用、〈ろうきん〉相互間の資金の需給調整など、〈ろうきん〉が行う金融活動を支え、全国〈ろうきん〉の発展を支えています。

「ろうきんビジョン2035～共感と協創～」の実現に向け、はたらく人の安心・安全な暮らしの未来に向けて貢献するとともに、全国〈ろうきん〉の持続可能な経営基盤の確立に向けて、中央金融機関としての役割を最大限発揮していきます。

2015

2016

外部環境

- 国連においてSDGsが採択
- マイナンバーの通知開始

- 日銀マイナス金利政策導入
- ポケモンGOがヒット

〈ろうきん〉の事業活動

ろうきん森の学校が「国連生物多様性・連携事業」に認定

イーネット、ローソン・エイティエム・ネットワークス(現「ローソン銀行」、ビューカードとのATM提携開始

ろうきん森の学校

「国連生物多様性・連携事業」に認定

R ろうきん

森の学校

「ろうきん森の学校」は、労金連50周年記念社会貢献活動として2005年に開校し、「森を育む」「人を育む」「森で遊ぶ」という3つの柱のもと活動を展開してきました。

2015年10月には、「ろうきん森の学校」が、NPO法人や地域の団体・住民と連携して取り組んでいるプロジェクトであることや、社会課題を解決するための「長期的な支援」を確保する仕組みを整備していることなどが評価され、国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)が推奨する連携事業に認定されました。なお、労金連に対し授与された認定証には、「貴事業の発展と、生物多様性の社会への主流化に向けた今後のさらなるリーダーシップに期待します。」と記されています。

ほかにも、「ろうきん森の学校」は、2016年に第5回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて「公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞」を受賞しております。

●「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」とは

2010年10月に生物多様性条約第10回締約国会議(愛知県名古屋市)で採択された新たな生物多様性に関する世界目標である「愛知目標」の達成を目指し、国内のあらゆるセクターの参画と連携を促進するために設立され、推奨する連携事業を認定しています。

●これから

「ろうきん森の学校」を2030年のSDGs達成に向けた重要な取組みと位置づけ、各方面からの活動に対する期待・評価に応えられるよう、引続き展開していきます。



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。



2017

- iDeCo加入者範囲の拡大
- 顧客本位の業務運営に関する原則公開

2018

- 成年年齢18歳に引下げへ
- 働き方改革関連法成立

2019

- 改元・令和
- 消費税率10%に引上げ

全国〈ろうきん〉預金残高20兆円突破

「お客さま本位の業務運営に関する方針」の改正および成果指標(KPI)を設定

「ろうきんアプリ」サービス開始

ろうきんアプリサービス開始 〈ろうきん〉をもっと便利に

スマートフォンで“いつでも・どこでも”、かんたんに残高や入出金を確認できる便利なアプリとして2019年10月に「ろうきんアプリ」のサービスを開始しました。これまで多くのお客さまにご利用いただいております「ろうきんアプリ」の口座登録件数は195万件を超えました(2024年12月末現在)。

「ろうきんアプリ」は2021年3月にリニューアルされ、〈ろうきん〉が郵送でお届けしていた各種ご案内(帳票)の内容をアプリで確認できる機能、住所変更機能、お近くの〈ろうきん〉の店舗での相談を予約できる機能が追加されました。

また、お客さまの資産形成支援を目的として、2024年9月には年代や資産形成の目的・目標額に応じて、目標達成に必要な毎月の積立額の目安やおすすめ積立プランを確認できる資産形成シミュレーションをアプリに追加しています。

● ろうきんアプリで住所変更 “募金プロジェクト”

2024年10月よりお客さまが「ろうきんアプリ」を利用して住所変更をしていただくと〈ろうきん〉から1件あたり10円を募金(あしなが育英会へ寄付)するプロジェクトを実施しています。

● これから

日々のデジタル技術の発展や社会環境の変化によるライフスタイルの多様化により、お客さま自身が操作する非対面による取引や窓口時間外での取引のニーズが高まっています。

〈ろうきん〉では、はたらく皆さまの身近な金融機関として、引続き対面取引を大切にしつつも、非対面によるお客さまニーズにお応えできるよう、「ろうきんアプリ」のさらなるサービス向上に努めていきます。

ご利用手数料
無料

ご利用時間
24時間

ペーパーレスで
スツキリ



資産形成シミュレーション

2020

- 鬼滅の刃が大ヒット
- 日本は2050年カーボンニュートラルを宣言

2021

- 東京オリンピック開幕
- 大谷翔平がメジャーMVP

2022

- 東証市場区分の再編
- 32年ぶりの円安、1ドル150円突破

「勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言」の取組み開始

「ろうきん後見制度支援預金」取扱い開始

ろうきんDC定期預金残高1兆円突破

「ろうきん確定拠出年金定期預金(期間5年・1年)」残高1兆円突破 「ろうきんの勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言」の取組み

労金連は、全国の(ろうきん)を代表して企業型確定拠出年金の商品提供機関の役割を担っており、「ろうきん確定拠出年金(DC)定期預金(期間5年・1年)」を提供し、残高は1兆円を突破しました。

なお、期間5年定期預金は企業型確定拠出年金における単一商品では唯一の1兆円を超えている商品であり、残高NO.1!

〈ろうきん〉は、勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言の取組みとして、企業年金全般や企業型DCに係る学習会等を通じて会員への情報提供活動を行ってきた結果、「DCのことは(ろうきん)が相談に乗ってくれる」という認知が広がりました。こうした従来から継続する取組みにより、2024年12月末現在で残高1兆146億円、1,408規約(23,562社)まで拡大しました。

●「ろうきんの勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言」とは

企業年金は、公的年金とともに退職後の生活を支える重要な役割を担っています。

〈ろうきん〉では労働組合の退職金・企業年金を守る取組みをサポートするために、企業年金に関する情報提供や労働組合向け研修会の開催・研修用動画の提供、確定拠出年金における元本確保型商品の提供や、iDeCo(個人型確定拠出年金)による資産形成を支援しています。

●これから

日銀のマイナス金利政策の解除、それに続く政策金利の引上げにより「金利のある世界」に回帰してきています。

「金利のある世界」のなかでは、ろうきんDC定期預金(元本確保型商品)の役割がより一層高まると考えられるため、魅力ある金利設定に努め、引続き加入者等の皆さまの安定的な年金資産の形成を支援していきます。



皆さまに選ばれて
ろうきんDC定期預金は
残高1兆円に
到達いたしました

ろうきんの企業年金Webサイト

企業型確定拠出年金制度は、2001年10月から始まり、20年以上が経過しています。「ろうきんDC定期預金」は多くの皆さまにご利用いただき、2022年8月に残高が1兆円に到達しました。

「ろうきんDC定期預金(5年)」は、確定拠出年金の「元本確保型商品」において残高No.1です。「ろうきん」は、今後ともお客様の資産形成ニーズにお応えできるように努めてまいりますので、引き続きご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

退職金・企業年金に関する「疑問・相談」にお応えするため、確定拠出年金制度の仕組みやろうきんDC定期預金の説明など、様々な情報を発信しています。

※財形貯蓄ローン(一時金給付)は2022年3月31日限り
①は事務用
※本サイトは「ろうきんDC定期預金」の取扱いを目的としており、取扱いの申し込みではありません。また、専業主婦や専業主夫等の確定拠出年金の加入者等に対して取扱いを目的とした取扱いの案内・説明・お問い合わせは行ってはおりません。
確定拠出年金に関するお問い合わせは「お問い合わせ」ページよりお願いいたします。

2023

- 日本がWBCにおいて14年ぶりに優勝
- 日銀総裁に植田和男氏が就任

2024

- 「新NISA」がスタート
- 新紙幣発行

労働金庫会館(千代田区)建替えに伴う事務所仮移転

〈ろうきん〉働く人と子どもの明日を応援プロジェクト活動開始

あした 〈ろうきん〉働く人と子どもの明日を応援プロジェクト 「誰一人取り残さない」社会をめざして

〈ろうきん〉働く人と子どもの明日を応援プロジェクトは金融の枠組みを通してだけでは解決しにくい、手が届きにくい社会的課題の解決に向け、全国の〈ろうきん〉と一体となって地域の活動を応援する社会貢献活動として、2024年度より始動しました。

本プロジェクトは、全国の〈ろうきん〉と一体となって取り組むことにより、会員・顧客のみならず、すべての働く人に寄添う〈ろうきん〉の社会的役割の発揮、および金庫独自の社会貢献活動の活性化へつなげ、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与します。

また、「ろうきんSDGs行動指針」に基づく「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、SDGs17の目標のうち「目標1. 貧困をなくそう」および「目標10. 人や国の不平等をなくそう」をターゲットとし、全国の〈ろうきん〉と労働団体、NPO等とが連携することにより、「目標17. パートナーシップで目標を達成しよう」の実現も同時にめざしています。



期待する効果

- 1 働く人からお預かりした「意思あるお金」を持続可能で包摂的な社会の実現のために使うという資金の社会的循環の流れを一層強め、働く人を取巻く社会的課題の解決や共生社会の実現に寄与すること。
- 2 働く人の生活課題に焦点を当てた本取組みが、全国の〈ろうきん〉のネットワークを通じた外部関係先への情報発信等により、非営利協同セクターとのパートナーシップを深めることや、新たなネットワーク構築につながる。
- 3 本活動が金庫の会員労働組合の認知度向上、共感を呼び、また地方労福協等との連携強化につながり、社会的課題の認識と支援の輪が相乗的に広がっていくこと。

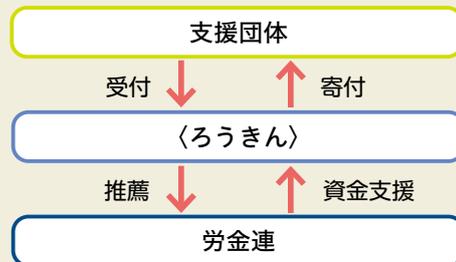
プロジェクトのしくみ

本プロジェクトでは、全国の〈ろうきん〉が支援対象となる社会的課題の解決に取り組む団体を選定し、労金連へ推薦、労金連がその活動資金を〈ろうきん〉に支援します。

支援対象となる社会的課題とは、働く人が直面する子育てや介護、疾病治療等と働くことの両立に係る課題、および低所得・生活困窮状態の勤労者の生活・子育てに係る課題のことです。

具体的な課題解決の取組みとして、低所得・生活困窮世帯やひとり親世帯等の働く人に対する就労支援、生活支援、およびさまざまな困難な状況にある子どもに対する食糧支援、学習支援等を支援の対象としています。

経済的な困難を抱える働く人・子どもへの支援



労金連ホームページ内の特設サイトにおいて、支援団体の紹介や活動報告を発信しています！
<https://www.rokinren.com/roukin-ashita-ouen/>





歴代理事長

今井一男 (1955-1983)
船後正道 (1983-1993)
禿河徹映 (1993-2000)
濱本英輔 (2000-2003)
岡田康彦 (2003-2011)
森田則夫 (2011-2014)
中江公人 (2014-2022)
西田安範 (2022-)

<https://www.rokinren.com/>

労働金庫連合会 〒101-0047東京都千代田区内神田1-13-4 TEL 03-3295-9322 (代)

